

○計画期間:令和元年12月～令和7年3月(5年4月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国から「松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、平成25年3月に「2期松江市中心市街地活性化基本計画」、令和元年12月に「3期松江市中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた。

3期計画においては、“既存ストックの活用などによる活気の創出”、“水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり”、“歴史・文化資源を生かした観光振興・交流の拡大”の3つの基本方針のもと、官民が連携して事業を展開し、中心市街地活性化に取り組んでいる。

令和元年度は中心市街地の賑わい創出の一環として、中心市街地活性化協議会のソフト事業で、5つの民間による事業が行われた。それぞれ、水辺空間や既存ストック活用を推進するイベント及び仕組みづくり、まちあるき案内看板の作成、観光案内所の設置、他店舗紹介マップの作製等、事業の実施により中心市街地に賑わいと商業の活性化をもたらした。

令和元年度はエリア・リノベーションを推進するための「水の都松江のまちのRe-project」が本格的にスタートし、官民、金融機関等が連携することで、松江のまちがもつ既存ストックを活かした新たなまちづくりが中心市街地に広がっていくことが期待される。

また、白潟地区都市再生整備計画が策定され、「水の都」のまちづくりを推進するために、魅力的な水辺空間の創出が今後進められていく。松江駅前から松江城までの賑わいの動線をつなげることで、歩きたくなる水辺空間や市街地を形成し、中心市街地の魅力向上を図っていく。

一方で、中心市街地の人口は依然として減少しており、商店街における営業店舗数も減少傾向にあるため、まちの活気が失われないよう各種事業を着実に実施していくことが重要である。

3期計画については今回のフォローアップが1回目となるが、まだ十分に効果が発現していない事業もある。新型コロナウイルス感染症の拡大により松江市においても大きな影響がでているところであり、今後の見通しがなかなか見えない厳しい状況ではあるが、中心市街地の活性化に向けて官民が一体となって取り組み、今後事業効果を最大限に高めることで活気の創出、中心市街地の活性化を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

| （中心市街地 区域） | 平成30年 度（計画前 年度） | 令和元年度 （1年目） | 令和2年度 （2年目） | 令和3年度 （3年目） | 令和4年度 （4年目） | 令和5年度 （5年目） | 令和6年度 （6年目） |
|---------------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 人口 | 7,548人 | 7,411人 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--|--|--|--|--|
| 人口増減数 | -100人 | -137人 | | | | | |
| 自然増減数 | -83人 | -89人 | | | | | |
| 社会増減数 | -17人 | -49人 | | | | | |
| 転入者数 | 291人 | 297人 | | | | | |

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

●はじめに

松江市は、歴史的、地理的状況を背景に、恵まれた風土と、城下町として栄えてきた地域と交通結節点として山陰地方の中核拠点都市として発展してまいりました。また、ここには文化や伝統、産業、行政機関をはじめとする公共・公益機能等、様々な産業資源や観光資源、社会資本が集積するとともに、人々が暮らし、働き、集い、学び、交流するコミュニティのステージが息づいております。松江市がさらなる発展をしていくためには、市全体の活性化が是非とも必要であり、とりもなおさず中心市街地の活性化が重要であります。

このため、松江市においては、松江市中心市街地活性化基本計画（以下、「計画」という。）を策定し、平成20年7月9日、第1期計画が、さらに平成25年3月29日に第2期計画が国の認定を受け、官・民・学が連携して鋭意各種事業を協働で実施してきたところであります。

しかしながら、「住んでよし、訪れてよしの“松江らしい”まちづくり」～住み続ける暮らしの中に流動性を生み出す～をコンセプトとした第2期計画は、平成31年3月終了時の結果を見ますと、6つの事業における未着手・未実施と、基本的な方針に対する3つの不達成状況を鑑みますと、引き続き官民学が一体となった推進を図り、目標値を達成しなければならないところであります。

このような状況の中、松江市において策定され令和元年12月に国の認定を受けた3期基本計画の令和元年度におけるフォローアップに関する報告について、本協議会は、これまでの計画の成果の検証による課題を認識しつつ、3期計画のコンセプトを念頭に置き、協議会におけるこれまでの討議をふまえ、次のとおり意見を申しあげます。

●意見

昨年度は、JR松江駅から松江城までの水辺空間の積極的な利活用を促進するため、5か年間の計画構想に基づく民間団体による実証実験の実施、観光施設来訪者へのホスピタリティーに繋げる「まちあるき案内看板」作成、補助金を利用した他店舗紹介マップの作成、当市の風土に根付いている既存ストック「蔵」を活用したイベント等、中心市街地の賑わい創出事業が行われました。また、一方では営業店舗数が減少傾向にある市内の商店街においては、若手起業家の出店や商店街イベントへの学生の参画、経営者の経営革新（SNS活用・キャッシュレス決済等）などの取り組みがなされており、中心市街地の魅力向上につながるものと思われまます。

しかしながら年度後半では、全世界に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の拡大により、当市においてもその影響は大きく今後の終息も見通せない状況にあります。

このような現況の下、第3期計画されている各種事業のスムーズな推進と、次代に繋がる施策に向けて、引き続き官民協力して推進を図る必要があります。

3期基本計画は、第1期計画並びに第2期計画による成果の検証と今後の課題に基づき計画を検

討し、「既存ストック活用などによる活気の創出」「水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり」「歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大」の3点を目標として掲げ、明確な将来の方向性を示すとともに、実現可能な目標と目標値も設定されています。

また、その実現に向けたハード・ソフト事業の両面から、具体的な取り組みも提示されていることから、この3期計画が円滑かつ着実に実施されることにより、中心市街地の活性化に大きく寄与するものと考えます。

なお、掲載されていない事業が具現化した場合は、適宜、当計画への追加を行う等、柔軟な対応をお願いいたします。

本協議会としては、今後3期計画が一層の実効性を発揮するものとして、新たに協議会の改組を行うものでございます。これまでの担当者レベルでの定期的な情報共有・協議により、課題解決に向けた検討や、各種事業の進捗を進行管理するためのワーキンググループを随時開催することはもとより、今後のまちなか居住を居心地の良いものとして行くために、若者が主体となり松江市の計画に反映するべく、「まちづくり構想図」、「エリアビジョン」について論議する場を設けます。官・民・学が一層連携し、一体的に各種事業を協働で進めていくことが重要であると考えておりますので、本協議会の運営に対し、今後とも積極的な支援を要望いたします

以上のことを踏まえ、当協議会は、3期計画定期フォローアップの内容につき妥当であると判断いたします。

なお、まちづくり事業の遂行においては、以下の点につきまして特段の配慮をお願いいたします。

1. まちづくりコーディネーター・サポーターの活動充実に向けた事務局体制の強化

平成24年度より中心市街地活性化協議会の中に「まちづくりサポーター」、平成27年度に「まちづくりコーディネーター」を設置しました。まちづくりコーディネーター・サポーターは、まちの主役である市民とともにハード・ソフト両面の事業化の芽を育み、活性化事業の推進を図っています。「基本計画」を着実・効果的に進めていくためには、まちづくりコーディネーター・サポーターの活動充実が望まれるところであり、事務局体制の強化に引き続き協力をお願いします。

2. 新規事業の掘り起こし

まちづくりコーディネーター・サポーターが中心となって行う地域課題の掘り起こしの中で、将来事業化に結びつきそうな事案については本協議会としても支援して参りますので、掘り起こしについての支援をお願いします。

3. 事業の進捗管理とデータの収集

松江市・本協議会・事業者の三者には、基本計画の進捗状況や目標指標の達成状況等についてのフォローアップ等が求められます。そのためにも、必要な情報の収集やデータ分析を行われたものの当協議会への提供。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 基準値からの改善状況 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|-------------------------|-------------------------------------|----------------------|-------------------------|------------------------|------------|--------|--------|
| 既存ストックの活用などによる活気の創出 | 遊休不動産の事業化件数 | 30件 (H26~30年度累計) | 53件 (R元年12月~7年3月累計) | 2件 (R元年12月~2年3月累計) | C | - | ③ |
| | (※補完指標) 歩行者・自転車通行量 (平日・休日2日間) | 20,060人 (H30年度) | 23,066人 (R6年度) | 25,702人 (R元年度) | A | - | ① |
| 水辺空間の活用などによるまちなかの賑わいづくり | 水辺の公共空間の活用日数 | 548日 (H26~30年度累計) | 948日 (R元年12月~7年3月累計) | 47日 (R元年12月~2年3月累計) | C | - | ③ |
| | (※補完指標) 水辺の公共空間の来訪者数 | 431千人 (H30年度) | 497千人 (R6年度) | 914千人 (R元年度) | A | - | ① |
| 歴史・文化資源を活かした観光振興・交流の拡大 | 中心市街地内の外国人宿泊客数 | 43千人 (H30年) | 65千人 (R6年) | 42千人 (R元年) | C | - | ② |
| | 中心市街地内の宿泊客数 | 1,269千人 (H30年) | 1,374千人 (R6年) | 1,320千人 (R元年) | B | - | ① |

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「遊休不動産の事業化件数」については、令和元年度（12月～3月分）は2件であった。「水の都松江のまちの Re-project」事業のさらなる進展とチャレンジショップ支援事業の拡充により、目標達成は可能であると考えている。

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」については、前年から5,642人増の25,702人であった。昨年と比較すると調査日の天候に恵まれたこと、また休日の調査日が3連休の中日であったことが要因として考えられる。主要事業の効果がまだ十分に発現されていないものの、「松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業」等の進展によりまちなかの回遊性が向上し、通行量が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の活用日数」については、令和元年度（12月～3月分）は47日であった。ただし、4月から3月までの1年間でみると、前年から97日増の267日であった。要因としては10年ぶりのホーランエンヤの開催等が考えられる。主要事業の効果がまだ十分に発現されていないものの、「大橋川周辺まちづくり事業」等の進展により水辺空間の利活用が増加することで目標達成は可能であると考えている。

「水辺の公共空間の来訪者数」については、前年から483千人増の914千人であった。例年より1日多い2日に渡って花火が行われた松江水郷祭や、10年ぶりのホーランエンヤの開催が要因である。主要事業の効果がまだ十分に発現されていないものの、「大橋川周辺まちづくり事業」等の進展により目標達成は可能であると考えている。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、前年から1千人減の42千人となった。外国人宿泊客数については、直近では一貫して増加傾向にあったものの日韓関係の悪化による影響等で減少となった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により令和2年はより厳しい状況になることが懸念されるが、目標達成に向けて最大限努力していく。

「中心市街地内の宿泊客数」については、前年から51千人増の1,320千人となった。令和元年はゴールデンウィークが10日間あったこと、10年ぶりのホーランエンヤ開催や、主要事業による事業効果があったものと考えられる。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により令和2年は厳しい状況になることが懸念されるため、目標達成に向けて最大限努力していく。

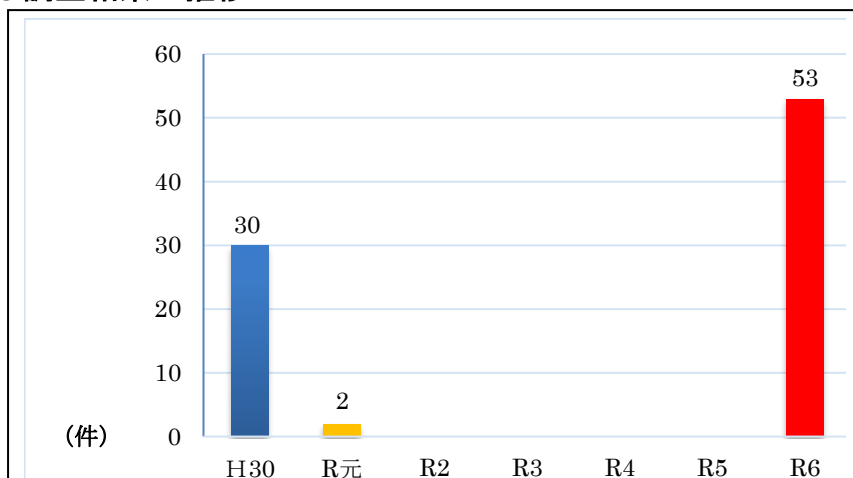
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「遊休不動産の事業化件数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



| 年 | (件) |
|-----|-------------------------------|
| H30 | 30 (基準年値) (H26～30 累計) |
| R元 | 2 |
| R2 | |
| R3 | |
| R4 | |
| R5 | |
| R6 | 53 (目標値) (R元.12～7.3 累計) |

※調査方法：主要事業における事業化件数

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地の遊休不動産

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project (松江市)

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～3年度【実施中】 |
| 事業概要 | 若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | リノベーションまちづくりをテーマとする講演会を2回、「まちのトレジャーハンティング@松江」を開催した。 今年度は事業化に至った件数はなかったものの、令和2年度以降開催予定のリノベーションスクール等を通じて遊休不動産の実事業化に繋げていくことを目指す。 |
| 事業の今後について | 令和2年度以降にリノベーションスクールの開催を予定している。 また遊休不動産所有者への活用意向の調査を実施予定。 |

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

| | |
|--------|---|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップ |

| | |
|---------------|--|
| | など起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業効果及び進捗状況 | 令和元年6月にオープンし、シェアオフィスやチャレンジカフェ、ゲストハウスを運営している。 事業化に至った件数はなかったものの、シェアオフィスやチャレンジショップでのSUETUGU利用者が、起業及び空き家を活用した出店へと繋がるのが期待される。 |
| 事業の今後について | SUETUGUの利用者を増やし、地域の人や観光客、起業家などが交流することを通じてまちなかの活性化を目指す。 |

③. チャレンジショップ支援事業（松江市）

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 平成9年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 中心市街地等の空き店舗等で、新たに出店しようとする事業者に対して家賃等の補助を行うことで、開業時の負担を軽減し、新規出店を促すことで商業の振興と地域経済の活性化を図っていく。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度～6年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 中心市街地内の空き店舗に出店希望する事業者に対して、2件補助を行ったことで、既存ストックの活用に貢献した。 |
| 事業の今後について | 補助対象と補助金額を拡充することでさらなる既存ストックの活用による活気の創出を目指していく。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

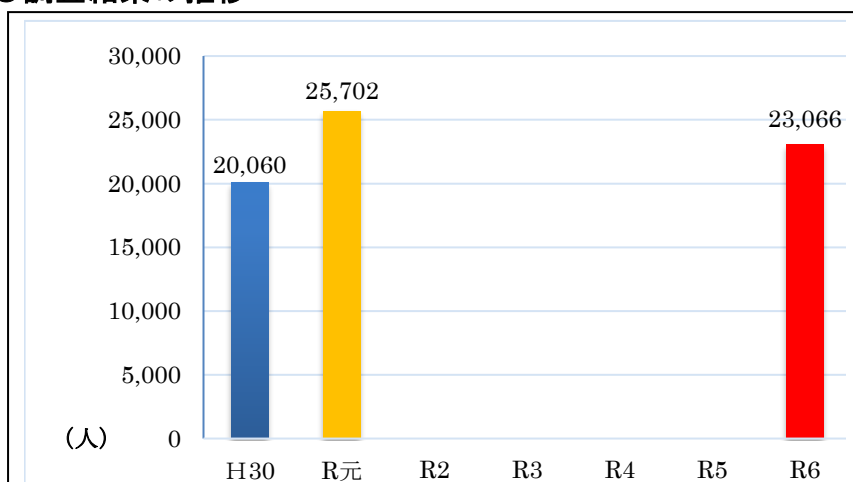
「遊休不動産の事業化件数」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると考えます。「チャレンジショップ支援事業」については、令和2年度から中心市街地商店街としている要件を基本計画で設定された区域内に拡大し、面的な活性化を図る。併せて、補助対象経費、補助上限額の拡充を行う予定であり、空き店舗等の遊休不動産の活用を推進する。

また、「水の都松江のまちのRe-project」については、「まちのトレジャーハンティング@松江※」において提案されたエリアのビジョンを踏まえ、具体の遊休不動産を題材にして、不動産の所有者に対し事業化の提案を行う「リノベーションスクール」の開催を令和2年度から予定しており、エリアリノベーションを推進していくことで、まちなかの再生と市域全体の活性化を目指す。

※参加者がエリアに分かれて実際にまちを歩き、まちに眠っている資産や魅力を発見し、その生かし方・使い方を考えエリアのビジョンとして提案するフィールドワーク

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



| 年 | (人) |
|-----|------------------|
| H30 | 20,060 (基準年値) |
| R元 | 25,702 |
| R2 | |
| R3 | |
| R4 | |
| R5 | |
| R6 | 23,066 (目標値) |

※調査方法：歩行者・自転車通行者数を毎年10～11月の平日・休日に、市内9地点において11時～18時で計測

※調査月：10～11月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内の9地点（みしまや中央店、末次本町広場、中村茶舗前、島根県不動産会館前、ポートピアビル前、駅前輪場横高架下、元丸三西側高架下、松江しんじ湖温泉南側、小泉八雲記念館前）における歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水の都松江のまちの Re-project（松江市）

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 令和元年度～3年度【実施中】 |
| 事業概要 | 若い世代の人材育成と遊休不動産の活用を連携させて取り組むことで、エリア・リノベーションを進め、美しい水辺景観などを生かした松江らしいまちなみを再整備し、若者が住みたくなり、やりたい仕事にチャレンジできる「若者が主役となる持続可能なまち」を目指す。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～3年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | リノベーションまちづくりをテーマとする講演会を2回、「まちのトレジャーハンティング@松江」を開催した。 今年度は事業化に至った件数はなかったため通行量の増加にはつながらなかったものの、令和2年度以降開催予定のリノベーションスクール等を通じて遊休不動産を活用した魅力的なコンテンツを創出することで通行量の増加を目指す。 |
| 事業の今後について | 令和2年度以降にリノベーションスクールの開催を予定している。 また遊休不動産所有者への活用意向の調査を実施予定。 |

②. 古民家活用型多創造複合施設「SUETUGU」（民間事業者）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 民間事業者の手で古民家をリノベーションして多創造複合施設を整備し、シェアオフィスやチャレンジカフェ、チャレンジショップなど起業したい方がチャレンジできる場を設け、次の出店、空き店舗解消につなげる。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業効果及び進捗状況 | 令和元年6月にオープンし、シェアオフィスやチャレンジカフェ、ゲストハウスを運営している。 シェアオフィスやチャレンジショップ等のSUETUGU利用者による空き店舗活用等の事業化に至った件数はなかったものの、28人の通行量増加に貢献したのみならず、周辺地区の賑わいや回遊性向上に貢献した。 |
| 事業の今後について | SUETUGUの利用者を増やし、地域の人や観光客、起業家などが交流することを通じてまちなかの活性化を目指す。 |

③. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

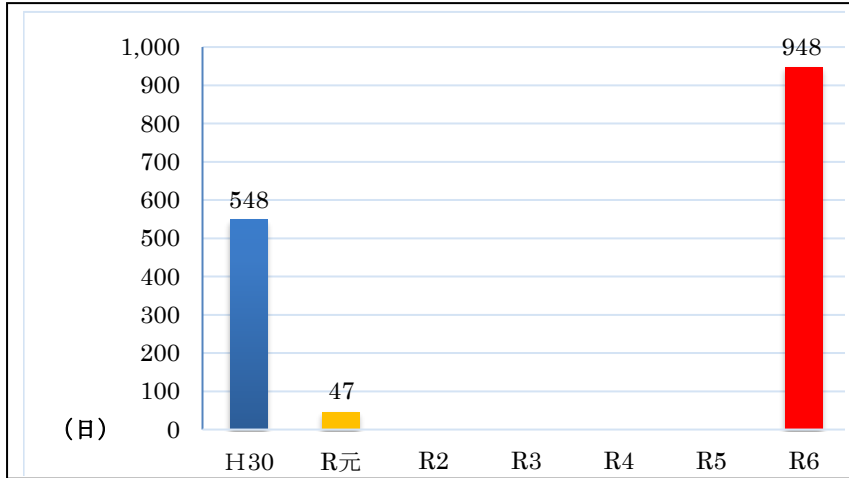
| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度【済】 |
| 事業概要 | 堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 整備完了が令和元年度末のため、今年度の通行量増加についてはまだ効果が発現していない。 |
| 事業の今後について | 施設整備が完了に加え、情報発信機能をさらに強化していくことで令和2年度以降の通行量増加に効果が発現してくることが期待される。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量（平日・休日2日間）」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると考えます。主要事業の効果が発現するのが令和2年度以降であり、また事業効果をさらに高めていくために官民連携して各事業に取り組むことで目標を達成していきたい。

「水辺の公共空間の活用日数」 ※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



| 年 | (日) |
|-----|---------------------------------|
| H30 | 548 (基準年値) (H26～30 累計) |
| R元 | 47 |
| R2 | |
| R3 | |
| R4 | |
| R5 | |
| R6 | 948 (目標値) (R元. 12～7.3 累計) |

※調査方法：市、県、国に対する利用申請又は届出等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：松江市、島根県、出雲河川事務所が管理する水辺の公共空間に対して利用に関する申請又は届出等があった日数の累計

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 平成30年度～ |
| 事業概要 | 大橋川周辺まちづくり基本計画にもとづき、官民で構成するミズベリング松江協議会により、大橋川周辺の公共空間を利活用する取組に対し、必要な経費を補助することで、魅力的な水辺空間と市街地の回遊性の創出を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業効果及び進捗状況 | 令和元年度においては、6、7月に水辺の保全保安のための体験事業や、10月にミズベリング縁日を開催するなど、水辺の利活用推進に取り組んだが、目標値対象期間である令和元年12月以降はミズベリング松江協議会としての取り組みはなかった。 |
| 事業の今後について | 水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいく。 |

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

| | |
|--------|---|
| 事業実施期間 | 令和2年度～11年度【実施中】 |
| 事業概要 | 大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。 |

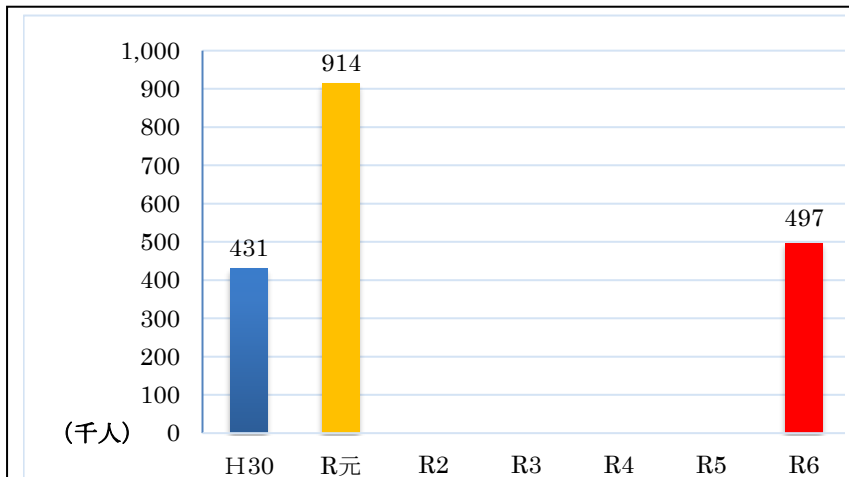
| | |
|---------------|--|
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度） 〔認定基本計画：都市再生整備計画事業（白潟地区（第1期））（国土交通省）（令和2年度～6年度）〕 |
| 事業効果及び進捗状況 | 都市再生整備計画を策定した。 令和2年度以降から事業を実施するため、今年度はまだ事業効果が発現していない。 |
| 事業の今後について | リノベーションスクールやトレジャーハンティングの取組と連携した公共空間における社会実験を実施していく。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の活用日数」については、主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると考えます。「白潟地区都市再生整備計画事業」については、効果が発現するのが令和2年度以降であり、また事業効果をさらに高めていくために官民連携して取り組むことで目標を達成していきたい。

「水辺の公共空間の来訪者数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



| 年 | （千人） |
|-----|---------------|
| H30 | 431 （基準年値） |
| R元 | 914 |
| R2 | |
| R3 | |
| R4 | |
| R5 | |
| R6 | 497 （目標値） |

※調査方法：松江市観光動態調査等

※調査月：毎年4月1日～3月31日

※調査主体：松江市

※調査対象：水辺の公共空間で開催されたイベントの観客数等

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大橋川周辺まちづくり事業（松江市）

| | |
|---------|---|
| 事業実施期間 | 平成30年度～ |
| 事業概要 | 大橋川周辺まちづくり基本計画にもとづき、官民で構成するミズベリング松江協議会により、大橋川周辺の公共空間を利活用する取組に対し、必要な経費を補助することで、魅力的な水辺空間と市街地の回遊性の創出を図る。 |
| 国の支援措置名 | 国の支援措置なし |

| | |
|------------|--|
| 及び支援期間 | |
| 事業効果及び進捗状況 | 令和元年度においては、6、7月に水辺の保全保安のための体験事業や、10月にミズベリング縁日を開催した。ミズベリング縁日の参加者数は5,000人であり、水辺の公共空間の来訪者数の増加に貢献した。 |
| 事業の今後について | 水辺の公共空間における社会実験を予定しており、さらなる利活用に向けて取り組んでいくことで水辺の来訪者数を増加させていく。 |

②. 白潟地区都市再生整備計画事業（松江市）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和2年度～11年度【実施中】 |
| 事業概要 | 大橋川改修事業を契機として、拡幅箇所となる白潟地区において、水辺空間と既存ストックの活用により、中心市街地の回遊性向上と、賑わいの創出を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～6年度） 〔認定基本計画：都市再生整備計画事業（白潟地区（第1期））（国土交通省）（令和2年度～6年度）〕 |
| 事業効果及び進捗状況 | 都市再生整備計画を策定した。 令和2年度以降から事業を実施するため、今年度はまだ事業効果が発現していない。 |
| 事業の今後について | リノベーションスクールやトレジャーハンティングの取組と連携した公共空間における社会実験を実施していくことで水辺の来訪者数を増加させていく。 |

③. 水の都音楽祭（松江市）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 松江市が水の都であるということを音楽という幅広く届くツールを使い、市内外に水の都であることを幅広く発信する。また市民のシティプライドを高めるため、多様な市民参加からなる事業を目的とし、地域の活性化を目指すため水の都音楽祭を開催する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業効果及び進捗状況 | 令和元年11月3日と4日に開催され、延べ40,000人が参加したことで水辺の公共空間の来訪者数増加に貢献した。 |
| 事業の今後について | 水の都であることを幅広く発信するために、水の都音楽祭を引き続き開催することで、目標達成に取り組んでいく。 |

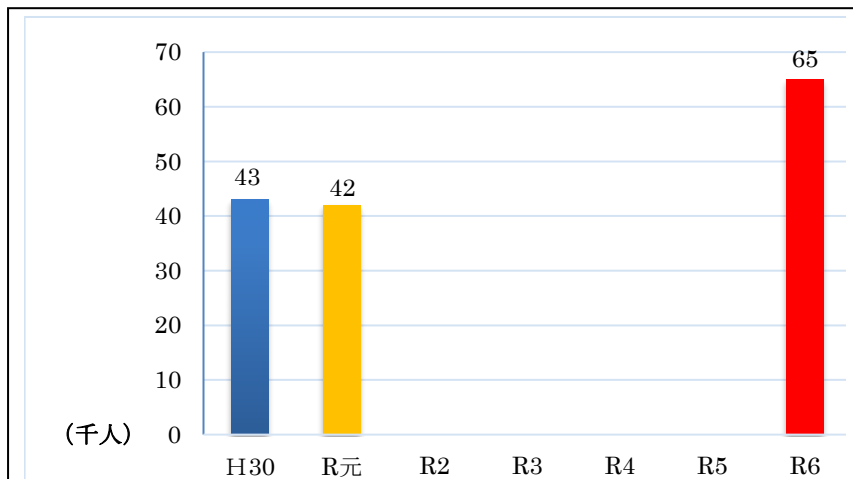
●目標達成の見通し及び今後の対策

「水辺の公共空間の来訪者数」については、基準値を大きく上回る結果となっている

が、これは松江水郷祭（参加者数 480 千人）が例年 1 日開催だったものが 2 日開催になったこと、10 年に 1 度開催される日本三大船神事のホーランエンヤ（参加者数 385 千人）が開催された年であったことが影響している。主要事業が概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能であると考えます。

「中心市街地内の外国人宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



| 年 | （千人） |
|-----|--------------|
| H30 | 43 （基準年値） |
| R元 | 42 |
| R2 | |
| R3 | |
| R4 | |
| R5 | |
| R6 | 65 （目標値） |

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年 1～12 月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間外国人宿泊客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 平成 30 年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（平成 30 年度～令和 2 年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 直接事業として松江水燈路や松江城ライトアップ事業等を実施した。また、ゴーストバスラッピング、おせわさんプロジェクト等への事業補助を行った。 事業効果：3 千人 |
| 事業の今後について | 観光協会をはじめとした民間事業者の支援を通じ、民間活力を活用した松江の魅力向上及び観光誘客の促進、外国人宿泊客数の増加を図る。 |

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

| | |
|--------|----------|
| 事業実施期間 | 令和元年度【済】 |
|--------|----------|

| | |
|---------------|--|
| 事業概要 | 堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 整備完了が令和元年度末のため、今年度の外国人宿泊客数増加についてはまだ効果が発現していない。 |
| 事業の今後について | 施設整備が完了に加え、情報発信機能をさらに強化していくことで令和2年度以降の外国人宿泊客数増加に効果が発現してくることが期待される。 |

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 平成28年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～令和2年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 圏域インバウンド対策事業として、観光案内所ネットワーク化の推進や欧米豪、台湾、上海向けの海外プロモーションを行った。 事業効果：6千人 |
| 事業の今後について | 引き続き各自治体の事業と連携及び協力するとともに、経済界とのさらなる連携強化によって観光誘客を推進していく。 |

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（民間事業者）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和2年度～【未着手】 |
| 事業概要 | 民間宿泊施設の開業 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業効果及び進捗状況 | 現在中心市街地内において民間事業者による宿泊施設の整備が2件進んでいるが、令和元年度時点で建設工事中である。 |
| 事業の今後について | 令和2年度以降に完成予定。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

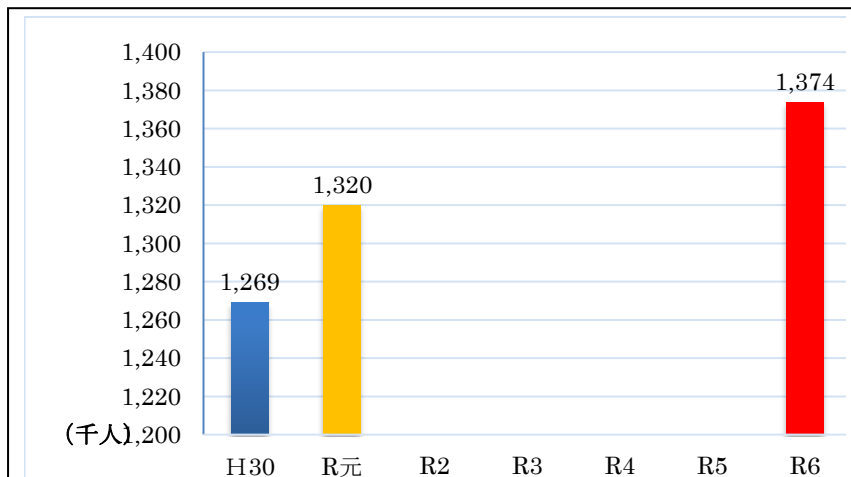
「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、まだ未着手となっている主要事業が

あるものの、概ね順調に進捗しているため目標達成は可能であると考え。

令和元年はゴールデンウィークの10連休や、10年ぶりの「ホーランエンヤ」開催により、基準値を上回ったが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が懸念される。

「中心市街地内の宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P71 参照

●調査結果の推移



| 年 | (千人) |
|-----|-----------------|
| H30 | 1,269 (基準年値) |
| R元 | 1,320 |
| R2 | |
| R3 | |
| R4 | |
| R5 | |
| R6 | 1,374 (目標値) |

※調査方法：松江市観光動態調査

※調査月：毎年1～12月

※調査主体：松江市

※調査対象：中心市街地内のホテル、旅館、公共の宿泊施設の年間宿泊客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰まんなかインバウンド推進プロジェクト（松江市）

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 平成30年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 地域資源（歴史・文化など）のブラッシュアップを図り、夜のイベント開催などによって魅力を向上させ、域内の経済を活性化するもの。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和2年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 直接事業として松江水燈路や松江城ライトアップ事業等を実施した。また、ゴーストバスラッピング、おせわさんプロジェクト等への事業補助を行った。 事業効果：3千人 |
| 事業の今後について | 観光協会をはじめとした民間事業者の支援を通じ、民間活力を活用した松江の魅力向上及び観光誘客の促進、外国人宿泊客数の増加を図る。 |

②. 松江城周辺観光魅力創造拠点整備事業（松江市）

| | |
|--------|----------|
| 事業実施期間 | 令和元年度【済】 |
|--------|----------|

| | |
|---------------|--|
| 事業概要 | 堀川遊覧船の待合所を、観光情報発信機能を持たせた拠点施設として整備することで、まちあるき観光を含めた観光客の利便性の向上とさらなる集客を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生拠点整備交付金（内閣府）（令和元年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 松江城周辺のハブ機能、インバウンド対応機能、物産・飲食などの総合的な情報発信機能を強化して施設整備を行った。 整備完了が令和元年度末のため、今年度の外国人宿泊客数増加についてはまだ効果が発現していない。 |
| 事業の今後について | 施設整備が完了に加え、情報発信機能をさらに強化していくことで令和2年度以降の外国人宿泊客数増加に効果が発現してくることが期待される。 |

③. 中海・宍道湖・大山圏域観光局事業（松江市）

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 平成28年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 松江市中心市街地でイベント等を開催する団体や外国人が訪れる商店街などと連携・協力して取り組み、観光プロモーションや観光客受入環境の整備を行うことによって、圏域のスケールメリットを活かした一体的な観光振興を図る。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～令和2年度） |
| 事業効果及び進捗状況 | 圏域インバウンド対策事業に加え、国内誘客対策事業としてJR等と連携した観光プロモーション、三大都市圏への観光プロモーション等を行った。 事業効果：18千人 |
| 事業の今後について | 引き続き各自治体の事業と連携及び協力するとともに、経済界とのさらなる連携強化によって観光誘客を推進していく。 |

④. 民間事業者による宿泊施設の整備（松江市）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 令和2年度～【未着手】 |
| 事業概要 | 民間宿泊施設の開業 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業効果及び進捗状況 | 現在中心市街地内において民間事業者による宿泊施設の整備が2件進んでいるが、令和元年度時点で建設工事中である。 |
| 事業の今後について | 令和2年度以降に完成予定。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地内の外国人宿泊客数」については、まだ未着手となっている主要事業があるものの、概ね順調に進捗しているため目標達成は可能であると考えます。

令和元年は、韓国からの宿泊客数が7月からの日韓関係悪化によって減少したことで基準値を下回る結果となった。アジア方面では、シンガポール・タイを中心に市独自でも観光誘致の取り組みを強化しているところだが、東南アジア市場ではまだまだ当市の認知度が低く、直行便がないため大幅な伸びは期待できず、外国人宿泊者数の約2割を占める韓国からの宿泊者数を完全に補完していくことは、ハードルが高いものと考えており、今後の情勢を注視していく。

さらに令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大による影響も懸念される。